

# クラウドコンピューティングとビッグデータ入門

このレッスンでは以下のトピックを取り上げます：

- Spark
- Hadoop
- Kubernetes
- Docker
- Flink
- MongoDB

(注：これらの項目は技術名であり、翻訳の必要はありません。)

クラウドコンピューティングについて語るとき、多くのツールが欠かせません。Hadoop、Hive、Hbase、ZooKeeper、Docker、Kubernetes、Spark、Kafka、MongoDB、Flink、Druid、Presto、Kylin、Elastic Search など、聞いたことがありますか？これらのツールのいくつかは、ビッグデータエンジニアや分散バックエンドエンジニアの職務記述書から見つけたものです。これらは高給のポジションです。私たちはそれらをすべてインストールして、少し触れてみることにしましょう。## Spark 初探

公式サイトによると、Spark は大規模データの分析エンジンとして使用されます。spark は一連のライブラリです。Redis のようにサーバーとクライアントに分かれているわけではなく、spark はクライアント側でのみ使用されます。公式サイトから最新バージョン、spark-3.1.1-bin-hadoop3.2.tar をダウンロードしました。

```
$ tree . -L 1
.
LICENSE
NOTICE
R
README.md
RELEASE
bin
conf
data
examples
jars
kubernetes
```

```
licenses
python
sbin
yarn
```

## 11 ディレクトリ、4 ファイル

どうやら、各言語で書かれたいくつかの解析ライブラリのようです。

また、公式サイトによると、Python上で直接依存ライブラリをインストールできるとのことです。`pip install pyspark`

```
```shell
$ pip install pyspark
pysparkを収集中
  pyspark-3.1.1.tar.gz (212.3 MB) をダウンロード中
    |          212.3 MB 14 kB/s

py4j==0.10.9 を収集中
  py4j-0.10.9-py2.py3-none-any.whl (198 kB) をダウンロード中
    |          198 kB 145 kB/s

収集したパッケージのためのホイールを構築中: pyspark
  pysparkのためのホイールを構築中 (setup.py) ... 完了
  pysparkのためのホイールを作成しました: ファイル名=pyspark-3.1.1-py2.py3-none-any.whl サイズ=212767604 sha256=...
  ディレクトリに保存: /Users/lzw/Library/Caches/pip/wheels/23/bf/e9/9f3500437422e2ab82246f25a51ee480a44d4

pysparkのビルドに成功しました
収集したパッケージをインストール中: py4j, pyspark
py4j-0.10.9 と pyspark-3.1.1 のインストールに成功しました
```

インストールしました。

これは公式サイトを見て、いくつかの例を確認しています。

```
./bin/run-example SparkPi 10
```

あ、なるほど、ダウンロードしたインストーラーパッケージ内のプログラムを実行できるんですね。でもエラーが出ました。

```
$ ./bin/run-example SparkPi 10
21/03/11 00:06:15 WARN NativeCodeLoader: プラットフォーム用のネイティブHadoopライブラリをロードできません...
```

21/03/11 00:06:16 INFO ResourceUtils: spark.driver用のカスタムリソースは設定されていません。

21/03/11 00:06:16 WARN Utils: サービス 'sparkDriver' がランダムな空きポートにバインドできませんでした。適切な

Spark は、Hadoop データと互換性のある高速で汎用的な処理エンジンです。YARN または Spark のスタンドアロンモードを介して Hadoop クラスターで実行でき、HDFS、HBase、Cassandra、Hive、および任意の Hadoop InputFormat のデータを処理できます。バッチ処理（MapReduce に類似）と、ストリーミング、インタラクティブクエリ、機械学習などの新しいワークフローの両方を実行するように設計されています。

hadoop が何度も登場しました。spark depends hadoop を Google で検索したところ、以下のような記述が見つかりました。どうやらこれは Hadoop 形式のデータに依存しているようです。まずは Hadoop について調べてみましょう。

## Hadoop

簡単に公式サイトを見た後、インストールしてみましょう。

```
brew install hadoop
```

インストールの過程で、少し理解を深めましょう。

Apache Hadoop ソフトウェアライブラリは、シンプルなプログラミングモデルを使用して、コンピュータのクラスター全体で大規模なデータセットを分散処理するためのフレームワークです。単一のサーバーから数千台のマシンにスケールアップするよう設計されており、各マシンがローカルでの計算とストレージを提供します。ハードウェアに依存して高可用性を実現するのではなく、ライブラリ自体がアプリケーション層で障害を検出し、処理するように設計されているため、それそれが障害を起こしやすいコンピュータのクラスター上で高可用性サービスを提供します。

つまり、Hadoop は分散データセットを処理するためのフレームワークです。これらのデータセットは多くのコンピュータに分散している可能性があります。非常にシンプルなプログラミングモデルを使用して処理します。Hadoop は、単一のサーバーから数千台のマシンに拡張できるように設計されています。ハードウェアの高可用性に依存するのではなく、このライブラリはアプリケーションレベルでエラーを検出し、処理するように設計されています。そのため、クラスター内の各コンピュータが故障する可能性があるにもかかわらず、高可用性のサービスをクラスターに展開することができます。

```
$ brew install hadoop
```

エラー:

homebrew-core はシャロー（浅い）クローンです。

homebrew-cask はシャロー（浅い）クローンです。

`brew update` を実行する前に、まず以下を実行してください:

```
git -C /usr/local/Homebrew/Library/Taps/homebrew/homebrew-core fetch --unshallow
```

```
git -C /usr/local/Homebrew/Library/Taps/homebrew/homebrew-cask fetch --unshallow
```

これらのコマンドは、リポジトリのサイズが大きいため、実行に数分かかる場合があります。

この制限は、GitHubの要請により設けられました。シャロークローンの更新は、

Homebrew/homebrew-core と Homebrew/homebrew-cask のツリーレイアウトとトラフィックのため、

非常に高コストな操作です。これを自動的に行わないのは、CIシステムで繰り返し高コストな

アンシャロー操作を実行しないようにするために（CIシステムはシャロークローンを使用しないように修正されるべきです）ご不便をおかけして申し訳ありません。

```
--> Downloading https://homebrew.bintray.com/bottles/openjdk-15.0.1.big_sur.bottle.tar.gz
```

すでにダウンロード済み: /Users/lzw/Library/Caches/Homebrew/downloads/d1e3ece4af1d225bc2607eaa4ce85a873d2c

```
--> Downloading https://www.apache.org/dyn/closer.lua?path=hadoop/common/hadoop-3.3.0/hadoop-3.3.0.tar.
```

すでにダウンロード済み: /Users/lzw/Library/Caches/Homebrew/downloads/764c6a0ea7352bb8bb505989feee1b36dc62

```
--> hadoop の依存関係をインストール中: openjdk
```

```
--> hadoop の依存関係をインストール中: openjdk
```

```
--> openjdk-15.0.1.big_sur.bottle.tar.gz を展開中
```

```
--> 注意
```

システムのJavaラッパーがこのJDKを見つけるためには、以下のようにシンボリックリンクを作成してください:

```
sudo ln -sfn /usr/local/opt/openjdk/libexec/openjdk.jdk /Library/Java/JavaVirtualMachines/openjdk.jdk
```

openjdk は keg-only です。これは、/usr/local にシンボリックリンクが作成されていないことを意味します。なぜなら、macOS の java ラッパーと競合するためです。

もし PATH に openjdk を最初に配置する必要がある場合は、次のコマンドを実行してください:

```
bash echo 'export PATH="/usr/local/opt/openjdk/bin:$PATH"' >> /Users/lzw/.bash_profile
```

コンパイラが openjdk を見つけるためには、以下の設定が必要かもしれません: bash export CPPFLAGS="-I/usr/local/opt/openjdk/include"

--> 概要 ✘ /usr/local/Cellar/openjdk/15.0.1: 614 ファイル, 324.9MB ==> Hadoop をインストール

中 ✘ /usr/local/Cellar/hadoop/3.3.0: 21,819 ファイル, 954.7MB, 2 分 15 秒でビルド完了 ==> 依存

関係のアップグレード 1 つ: maven 3.3.3 -> 3.6.3\_1 ==> maven 3.3.3 -> 3.6.3\_1 にアップグレード

中 ==> https://www.apache.org/dyn/closer.lua?path=maven/maven-3/3.6.3/binaries/apache-maven-

3.6.3-bin.tar.gz をダウンロード 中 ==> https://mirror.olnevhost.net/pub/apache/maven/maven-

3/3.6.3/binaries/apache-maven-3.6.3-bin.tar.gz からダウンロード 中 #####

100.0% エラー: brew link ステップが正常に完了しませんでした フォーミュラはビルドされました  
が、 /usr/local にシンボリックリンクされていません bin/mvn をシンボリックリンクできま  
せんでした ターゲット /usr/local/bin/mvn は maven に属するシンボリックリンクです。以下のコ  
マンドでリンクを解除できます: brew unlink maven

リンクを強制し、すべての競合するファイルを上書きするには: brew link --overwrite maven

削除されるすべてのファイルをリストアップするには: brew link --overwrite -dry-run maven

競合する可能性のあるファイルは以下の通りです: /usr/local/bin/mvn -> /usr/local/Cellar/maven/3.3.3/bin/mvn  
/usr/local/bin/mvnDebug -> /usr/local/Cellar/maven/3.3.3/bin/mvnDebug /usr/local/bin/mvnyjp ->  
/usr/local/Cellar/maven/3.3.3/bin/mvnyjp ==> 概要 □ /usr/local/Cellar/maven/3.6.3\_1: 87 ファイ  
ル, 10.7MB, 7 秒でビルド 削除中: /usr/local/Cellar/maven/3.3.3... (92 ファイル, 9MB) ==> ア  
ップグレードされたフォーミュラの依存関係をチェック中... ==> 壊れた依存関係は見  
つかりませんでした! ==> 注意事項 ==> openjdk システムの Java ラッパーがこの JDK を  
見つけるためには、以下のようにシンボリックリンクを作成してください: sudo ln -sfn  
/usr/local/opt/openjdk/libexec/openjdk.jdk /Library/Java/JavaVirtualMachines/openjdk.jdk

openjdk は keg-only であり、これは/usr/local にシンボリックリンクされていないことを意味し  
ます。なぜなら、macOS の java ラッパーをシャドウしてしまうからです。

もし openjdk を PATH の最初に置く必要がある場合は、次のコマンドを実行してください: bash  
echo 'export PATH="/usr/local/opt/openjdk/bin:\$PATH"' >> /Users/lzw/.bash\_profile

コンパイラが openjdk を見つけるためには、以下の設定が必要かもしれません: export  
CPPFLAGS="-I/usr/local/opt/openjdk/include"

`brew` の出力ログに `maven` が適切にリンクされていないことに気づきました。次に、バージョン `3.6.3\_1` に強制的にリンク

```
```shell
brew link --overwrite maven
```

Hadoop のインストールが成功しました。

## モジュール

このプロジェクトには以下のモジュールが含まれています：

- **Hadoop Common:** 他の Hadoop モジュールをサポートする共通ユーティリティ。
- **Hadoop Distributed File System (HDFS™):** アプリケーションデータへの高スル  
ー プットアクセスを提供する分散ファイルシステム。

- **Hadoop YARN**: ジョブスケジューリングとクラスタリソース管理のためのフレームワーク。
- **Hadoop MapReduce**: 大規模データセットの並列処理を行うための YARN ベースのシステム。
- **Hadoop Ozone**: Hadoop 用のオブジェクトストア。

これらのモジュールがあると言います。これで `hadoop` と入力すると、次のように表示されます：

```
$ hadoop
使用方法: hadoop [オプション] サブコマンド [サブコマンド オプション]
または    hadoop [オプション] クラス名 [クラス名 オプション]
ここで、クラス名はユーザーが提供するJavaクラスです
```

OPTIONS は none または以下のいずれかです:

-config dir Hadoop の設定ディレクトリ -debug シェルスクリプトのデバッグモードを有効にする  
 -help 使用方法の情報を表示 buildpaths ビルドツリーからクラスファイルを追加しようとする  
 hostnames list[,of,host,names] スレーブモードで使用するホスト名のリスト hosts filename スレーブモードで使用するホストのリストファイル loglevel level このコマンドの log4j レベルを設定  
 workers ワーカーモードを有効にする

SUBCOMMAND は以下のいずれかです: Admin コマンド:

daemonlog 各デーモンのログレベルを取得/設定する

クライアントコマンド:

archive	Hadoopアーカイブを作成する
checknative	Hadoopおよび圧縮ライブラリのネイティブ利用可能性を確認する
classpath	Hadoopのjarと必要なライブラリを取得するためのクラスパスを表示する
conftest	設定XMLファイルを検証する
credential	認証プロバイダーと対話する
distch	分散メタデータチェンジャー
distcp	ファイルまたはディレクトリを再帰的にコピーする
dtutil	委譲トークンに関連する操作
envvars	計算されたHadoop環境変数を表示する
fs	汎用ファイルシステムユーザークライアントを実行する
gridmix	プロダクション負荷をモデル化した合成ジョブのミックスを送信する
jar <jar>	jarファイルを実行する。注: YARNアプリケーションを起動するには、"yarn jar"を使用してください。この

jnipath	java.library.pathを表示する
kdiag	Kerberosの問題を診断する
kerbname	auth_to_localプリンシパル変換を表示する
key	KeyProviderを介してキーを管理する
rumenfolder	rumen入力トレースをスケーリングする
rumentrace	ログをrumenトレースに変換する
s3guard	S3上のメタデータを管理する
trace	Hadoopのトレース設定を表示および変更する
version	バージョンを表示する

デーモンコマンド:

kms KMS (Key Management Server) を実行する registrydns レジストリ DNS サーバーを実行する SUBCOMMAND は、パラメータなしまたは-h を付けて呼び出された場合にヘルプを表示する場合があります。

公式サイトにはいくつかの例が掲載されています。

```
```shell
$ mkdir input
$ cp etc/hadoop/*.xml input
$ bin/hadoop jar share/hadoop/mapreduce/hadoop-mapreduce-examples-3.2.2.jar grep input output 'dfs[a-z.]+'
$ cat output/*
```

このシェルコマンドのセットは、Hadoop を使用して特定の正規表現にマッチするテキストを検索するプロセスを示しています。以下に各コマンドの説明を日本語で示します。

#### 1. `mkdir input`

現在のディレクトリに `input` という名前のディレクトリを作成します。

#### 2. `cp etc/hadoop/*.xml input`

`etc/hadoop/` ディレクトリ内のすべての `.xml` ファイルを、新しく作成した `input` ディレクトリにコピーします。

#### 3. `bin/hadoop jar share/hadoop/mapreduce/hadoop-mapreduce-examples-3.2.2.jar grep input output 'dfs[a-z.]+'`

Hadoop の MapReduce サンプルプログラムを実行し、`input` ディレクトリ内のファイルから正規表現 '`dfs[a-z.]+`' にマッチするテキストを検索します。結果は `output` ディレクトリに保存されます。

4. cat output/\*

output ディレクトリ内のすべてのファイルの内容を表示します。これにより、検索結果を確認できます。

share/hadoop/mapreduce/hadoop-mapreduce-examples-3.2.2.jar があることに気づきました。これは、おそらくいくつかのサンプルファイルが含まれていないことを意味します。Homebrew を使ってインストールすると、これらのファイルが含まれていない可能性があると推測されます。そこで、公式サイトからインストールパッケージをダウンロードしました。

```
$ tree . -L 1  
.  
LICENSE-binary  
LICENSE.txt  
NOTICE-binary  
NOTICE.txt  
README.txt  
bin  
etc  
include  
lib  
libexec  
licenses-binary  
sbin  
share
```

このコマンドは、現在のディレクトリ（.）の内容を、深さ 1 レベルで表示しています。各エントリは、ファイルやディレクトリを表しています。

share ディレクトリが現れました。しかし、Homebrew は本当にこれらの追加ファイルを持っていないのでしょうか。Homebrew がインストールされているディレクトリを見つけましょう。

```
$ type hadoop  
hadoop は /usr/local/bin/hadoop です  
$ ls -alrt /usr/local/bin/hadoop  
lrwxr-xr-x 1 lzw admin 33 3月 11 00:48 /usr/local/bin/hadoop -> ../../Cellar/hadoop/3.3.0/bin/hadoop  
$ cd ../../Cellar/hadoop/3.3.0
```

これは /usr/local/Cellar/hadoop/3.3.0/libexec/share/hadoop ディレクトリの下に表示されたディレクトリツリーです。

```
$ tree . -L 2

.

client
    hadoop-client-api-3.3.0.jar
    hadoop-client-minicluster-3.3.0.jar
    hadoop-client-runtime-3.3.0.jar

common
    hadoop-common-3.3.0-tests.jar
    hadoop-common-3.3.0.jar
    hadoop-kms-3.3.0.jar
    hadoop-nfs-3.3.0.jar
    hadoop-registry-3.3.0.jar
    jdiff
    lib
    sources
    webapps

hdfs
    hadoop-hdfs-3.3.0-tests.jar
    hadoop-hdfs-3.3.0.jar
    hadoop-hdfs-client-3.3.0-tests.jar
    hadoop-hdfs-client-3.3.0.jar
    hadoop-hdfs-httpfs-3.3.0.jar
    hadoop-hdfs-native-client-3.3.0-tests.jar
    hadoop-hdfs-native-client-3.3.0.jar
    hadoop-hdfs-nfs-3.3.0.jar
    hadoop-hdfs-rbf-3.3.0-tests.jar
    hadoop-hdfs-rbf-3.3.0.jar
    jdiff
    lib
    sources
    webapps

mapreduce
    hadoop-mapreduce-client-app-3.3.0.jar
    hadoop-mapreduce-client-common-3.3.0.jar
    hadoop-mapreduce-client-core-3.3.0.jar
    hadoop-mapreduce-client-hs-3.3.0.jar
```

```
hadoop-mapreduce-client-hs-plugins-3.3.0.jar
hadoop-mapreduce-client-jobclient-3.3.0-tests.jar
hadoop-mapreduce-client-jobclient-3.3.0.jar
hadoop-mapreduce-client-nativetask-3.3.0.jar
hadoop-mapreduce-client-shuffle-3.3.0.jar
hadoop-mapreduce-client-uploader-3.3.0.jar
hadoop-mapreduce-examples-3.3.0.jar
jdiff
lib-examples
sources

tools
dynamometer
lib
resourceestimator
sls
sources

yarn
csi
hadoop-yarn-api-3.3.0.jar
hadoop-yarn-applications-catalog-webapp-3.3.0.war
hadoop-yarn-applications-distributedshell-3.3.0.jar
hadoop-yarn-applications-mawo-core-3.3.0.jar
hadoop-yarn-applications-unmanaged-am-launcher-3.3.0.jar
hadoop-yarn-client-3.3.0.jar
hadoop-yarn-common-3.3.0.jar
hadoop-yarn-registry-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-applicationhistoryservice-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-common-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-nodemanager-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-resourcemanager-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-router-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-sharedcachemanager-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-tests-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-timeline-pluginstorage-3.3.0.jar
hadoop-yarn-server-web-proxy-3.3.0.jar
hadoop-yarn-services-api-3.3.0.jar
```

```
hadoop-yarn-services-core-3.3.0.jar
lib
sources
test
timelineservice
webapps
yarn-service-examples
```

多くの jar パッケージが見られるでしょう。

```
$ mkdir input
$ ls
bin     .hadoop-config.sh   hdfs-config.sh    libexec      sbin      yarn-config.sh
etc      .hadoop-functions.sh  input        mapred-config.sh  share
$ cp etc/hadoop/*.xml input
$ cd input/
$ ls
capacity-scheduler.xml  hadoop-policy.xml  hdfs-site.xml      kms-acls.xml      mapred-site.xml
core-site.xml           hdfs-rbf-site.xml  httpfs-site.xml    kms-site.xml      yarn-site.xml
$ cd ..
$ bin/hadoop jar share/hadoop/mapreduce/hadoop-mapreduce-examples-3.2.2.jar grep input output 'dfs[a-z].'
JARが存在しないか、通常のファイルではありません: /usr/local/Cellar/hadoop/3.3.0/libexec/share/hadoop/mapredu...
$ 
$ bin/hadoop jar share/hadoop/mapreduce/hadoop-mapreduce-examples-3.3.0.jar grep input output 'dfs[a-z].'
2021-03-11 01:54:30,791 WARN util.NativeCodeLoader: プラットフォーム用のネイティブHadoopライブラリをロードで...
2021-03-11 01:54:31,115 INFO impl.MetricsConfig: hadoop-metrics2.propertiesからプロパティをロードしました
2021-03-11 01:54:31,232 INFO impl.MetricsSystemImpl: メトリックスナップショットの周期を10秒に設定しました。
...
...
```

公式サイトの例に従って進めます。bin/hadoop jar share/hadoop/mapreduce/hadoop-mapreduce-examples-3.2.2.jar grep input という部分に注目すると、jar ファイルの前にバージョン番号が付いています。したがって、これを私たちのバージョンである 3.3.0 に置き換える必要があります。

ログの最後：

```
2021-03-11 01:54:35,374 INFO mapreduce.Job: map 100% reduce 100%
2021-03-11 01:54:35,374 INFO mapreduce.Job: Job job_local2087514596_0002 が正常に完了しました
2021-03-11 01:54:35,377 INFO mapreduce.Job: カウンター: 30
```

#### ファイルシステムカウンター

FILE: 読み取られたバイト数=1204316  
FILE: 書き込まれたバイト数=3565480  
FILE: 読み取り操作数=0  
FILE: 大規模読み取り操作数=0  
FILE: 書き込み操作数=0

#### Map-Reduceフレームワーク

マップ入力レコード数=1  
マップ出力レコード数=1  
マップ出力バイト数=17  
マップ出力実体化バイト数=25  
入力分割バイト数=141  
結合入力レコード数=0  
結合出力レコード数=0  
リデュース入力グループ数=1  
リデュースシャッフルバイト数=25  
リデュース入力レコード数=1  
リデュース出力レコード数=1  
スピルされたレコード数=2  
シャッフルされたマップ数=1  
失敗したシャッフル数=0  
マージされたマップ出力数=1  
GC経過時間（ミリ秒）=57  
合計コミットされたヒープ使用量（バイト）=772800512

#### シャッフルエラー

BAD\_ID=0  
CONNECTION=0  
IO\_ERROR=0  
WRONG\_LENGTH=0  
WRONG\_MAP=0  
WRONG\_REDUCE=0

#### ファイル入力フォーマットカウンター

読み取られたバイト数=123

#### ファイル出力フォーマットカウンター

書き込まれたバイト数=23

続けて見ていきましょう。

```
$ cat output/*
1    dfsadmin
```

このコマンドは、`output` ディレクトリ内のすべてのファイルの内容を表示します。この例では、`output` ディレクトリ内のファイルに「1 dfsadmin」という内容が含まれていることがわかります。これは一体どういう意味なのでしょうか。心配ありません、とにかく私たちは Hadoop を起動させました。そして最初のスタンドアロン版の計算例を実行しました。

## Spark

Spark に戻りましょう。例を見てみましょう。

```
text_file = sc.textFile("hdfs://...")
counts = text_file.flatMap(lambda line: line.split(" "))
    .map(lambda word: (word, 1))
    .reduceByKey(lambda a, b: a + b)
counts.saveAsTextFile("hdfs://...")
```

このコードは、HDFS 上にあるテキストファイルを読み込み、単語の出現回数をカウントし、その結果を再び HDFS に保存するものです。以下に各ステップの説明を示します。

1. `text_file = sc.textFile("hdfs://...")`: HDFS 上のテキストファイルを読み込み、RDD (Resilient Distributed Dataset) として `text_file` に格納します。
2. `counts = text_file.flatMap(lambda line: line.split(" "))`: 各行をスペースで分割し、単語のリストに変換します。`flatMap` は、各行を複数の単語に分割し、それらを单一のリストに平坦化します。
3. `.map(lambda word: (word, 1))`: 各単語をキーとし、値として 1 を持つタプルに変換します。これにより、各単語の出現回数をカウントする準備が整います。
4. `.reduceByKey(lambda a, b: a + b)`: 同じキー (単語) を持つタプルの値を合計します。これにより、各単語の総出現回数が計算されます。
5. `counts.saveAsTextFile("hdfs://...")`: 計算結果を HDFS 上の指定されたパスにテキストファイルとして保存します。

このコードは、Apache Spark を使用して分散処理を行う典型的な例です。

ここに `hdfs` ファイルが現れました。調べたところ、以下のようにして `hdfs` ファイルを作成できることがわかりました：

```
hdfs dfs -mkdir /test
```

hdfs コマンドを見てみましょう。

```
$ hdfs
```

使用方法: hdfs [オプション] サブコマンド [サブコマンド オプション]

OPTIONS は none または以下のいずれかです:

-buildpaths ビルドツリーからクラスファイルを追加しようと試みる -config dir Hadoop の設定ディレクトリ -daemon (start|status|stop) デーモンの操作を行う -debug シエルスクリプトのデバッグモードを有効にする -help 使用方法の情報を表示 -hostnames list[,of,host,names] ワーカーモードで使用するホストのリスト -hosts filename ワーカーモードで使用するホストのリストを含むファイル -loglevel level このコマンドの log4j レベルを設定 -workers ワーカーモードを有効にする

SUBCOMMAND は以下のいずれかです: Admin コマンド:

cacheadmin HDFS キャッシュを設定する crypto HDFS 暗号化ゾーンを設定する debug HDFS デバッグコマンドを実行するためのデバッグ管理者を実行する dfsadmin DFS 管理者クライアントを実行する dfsrouteradmin ルーターベースのフェデレーションを管理する ec HDFS イレイジーコーディング CLI を実行する fsck DFS ファイルシステムチェックユーティリティを実行する haadmin DFS HA 管理者クライアントを実行する jmxget NameNode または DataNode から JMX エクスポートされた値を取得する oev オフライン編集ビューアを編集ファイルに適用する oiv オフライン fsimage ビューアを fsimage に適用する oiv\_legacy レガシー fsimage にオフライン fsimage ビューアを適用する storagepolicies ブロックストレージポリシーをリスト/取得/設定/満たす

クライアントコマンド:

classpath Hadoop の jar と必要なライブラリを取得するために必要なクラスパスを表示します dfs ファイルシステム上でファイルシステムコマンドを実行します envvars 計算された Hadoop 環境変数を表示します fetchdt NameNode から委譲トークンを取得します getconf 設定から設定値を取得します groups ユーザーが属するグループを取得します lsSnapshottableDir 現在のユーザーが所有するすべてのスナップショット可能なディレクトリをリストします snapshotDiff ディレクトリの 2 つのスナップショット間の差分、または現在のディレクトリ内容とスナップショットとの差分を表示します version バージョンを表示します

デーモンコマンド:

balancer クラスタのバランシングユーティリティを実行する datanode DFS データノードを実行する dfsrouter DFS ルーターを実行する diskbalancer 指定されたノード上のディスク間でデータ

を均等に分散する httpfs HttpFS サーバー、HDFS HTTP ゲートウェイを実行する journalnode DFS ジャーナルノードを実行する mover ストレージタイプ間でブロックレプリカを移動するユーティリティを実行する namenode DFS ネームノードを実行する nfs3 NFS バージョン3 ゲートウェイを実行する portmap portmap サービスを実行する secondarynamenode DFS セカンダリネームノードを実行する sps 外部ストレージポリシーサテイスファイアを実行する zkfc ZK フェイルオーバーコントローラーデーモンを実行する

SUBCOMMAND は、パラメータなしまたは-h を指定して呼び出された場合にヘルプを表示する場合があります。

コードを引き続き修正します。

```
```python
from pyspark.sql import SparkSession

spark = SparkSession.builder.master("local[*"])\n    .config('spark.driver.bindAddress', '127.0.0.1')\\
    .getOrCreate()\nsc = spark.sparkContext
```

このコードは、Apache Spark のセッションを作成し、ローカルマシン上で実行するための設定を行っています。SparkSession.builder を使用して、マスターノードを local[\*] に設定し、すべての利用可能なコアを使用するように指定しています。また、spark.driver.bindAddress を 127.0.0.1 に設定して、ドライバーがローカルホストにバインドされるようにしています。最後に、getOrCreate() メソッドでセッションを取得または作成し、sparkContext を sc 变数に格納しています。

```
text_file = sc.textFile("a.txt")\ncounts = text_file.flatMap(lambda line: line.split(" ")) \\
    .map(lambda word: (word, 1)) \\
    .reduceByKey(lambda a, b: a + b)\ncounts.saveAsTextFile("b.txt")
```

このコードは、Apache Spark を使用してテキストファイル内の単語の出現回数をカウントするものです。以下にその内容を説明します。

1. text\_file = sc.textFile("a.txt"): テキストファイル "a.txt" を読み込み、text\_file という RDD (Resilient Distributed Dataset) を作成します。

2. `counts = text_file.flatMap(lambda line: line.split(" "))`: 各行をスペースで分割し、単語のリストに変換します。flatMap は、各行を単語に分割し、それらを单一のリストに平坦化します。
3. `.map(lambda word: (word, 1))`: 各単語をキーとし、値として 1 を持つタプルにマッピングします。これにより、各単語の出現回数をカウントするための準備が整います。
4. `.reduceByKey(lambda a, b: a + b)`: 同じキー（単語）を持つタプルの値を合計します。これにより、各単語の総出現回数が計算されます。
5. `counts.saveAsTextFile("b.txt")`: 最終的な結果をテキストファイル “b.txt” として保存します。

このコードを実行すると、“a.txt” ファイル内の各単語の出現回数がカウントされ、その結果が “b.txt” に保存されます。

`.config('spark.driver.bindAddress', '127.0.0.1')` を設定することが重要です。そうしないと、Service 'sparkDriver' could not bind on a random free port. You may check whether configuring an appropriate binding address というエラーが発生します。

しかし、この時またエラーが発生しました。

```
Caused by: org.apache.spark.api.python.PythonException: Traceback (most recent call last):
  File "/usr/local/lib/python3.9/site-packages/pyspark/python/lib/pyspark.zip/pyspark/worker.py", line ...
    raise Exception(("Python in worker has different version %s than that in " +
Exception: Python in worker has different version 3.8 than that in driver 3.9, PySpark cannot run with c
```

このエラーメッセージは、PySpark が動作している環境で、ワーカーノードとドライバーノードの Python バージョンが異なるために発生しています。具体的には、ワーカーノードの Python バージョンが 3.8 であるのに対し、ドライバーノードの Python バージョンが 3.9 となっています。PySpark は、ワーカーとドライバーの Python のマイナーバージョンが異なる場合に実行できません。

この問題を解決するためには、環境変数 `PYSPARK_PYTHON` と `PYSPARK_DRIVER_PYTHON` が正しく設定されているか確認する必要があります。これらの環境変数を適切に設定することで、ワーカーとドライバーの Python バージョンを一致させることができます。

異なるバージョンの Python が実行されていることを示しています。

`.bash_profile` を編集する：

```
PYSPARK_PYTHON=/usr/local/Cellar/python@3.9/3.9.1_6/bin/python3
PYSPARK_DRIVER_PYTHON=/usr/local/Cellar/python@3.9/3.9.1_6/bin/python3
```

しかし、同じエラーが再び発生しました。調査した結果、sparkが実行される際にこの環境変数が読み込まれていない、つまりターミナルのデフォルトの環境変数が使用されていない可能性があることがわかりました。

コード内で設定する必要があります：

```
import os
```

## Spark 環境の設定

```
os.environ['PYSPARK_PYTHON'] = '/usr/local/Cellar/python@3.9/3.9.1_6/bin/python3'  
os.environ['PYSPARK_DRIVER_PYTHON'] = '/usr/local/Cellar/python@3.9/3.9.1_6/bin/python3'
```

これは実行されます。

```
$ python sc.py  
21/03/11 02:54:52 WARN NativeCodeLoader: プラットフォーム用のネイティブHadoopライブラリをロードできません...  
Sparkのデフォルトlog4jプロファイルを使用しています: org/apache/spark/log4j-defaults.properties  
デフォルトのログレベルを "WARN" に設定しています。  
ログレベルを調整するにはsc.setLogLevel(newLevel)を使用してください。SparkRの場合はsetLogLevel(newLevel)を使用  
PythonRDD[6] at RDD at PythonRDD.scala:53
```

この時点で b.txt が生成されます。

```
b.txt  
_SUCCESS  
part-00000  
part-00001
```

このディレクトリ構造は、b.txt というファイルが存在し、その中に \_SUCCESS、part-00000、part-00001 というファイルが含まれていることを示しています。

開いてみてください。

```
$ cat b.txt/part-00000  
('college', 1)  
('two', 1)  
('things', 2)
```

```
('worked', 1)
('on', 1)
('of', 8)
('school,', 2)
('writing', 2)
('programming.', 1)
("didn't", 4)
('then,', 1)
('probably', 1)
('are:', 1)
('short', 1)
('awful.', 1)
('They', 1)
('plot,', 1)
('just', 1)
('characters', 1)
('them', 2)

... 
```

成功しました！これはなじみ深いものではありませんか。まるで Hadoop の例のようです。

```
$ cat output/*
1    dfsadmin
```

このコマンドは、`output` ディレクトリ内のすべてのファイルの内容を表示します。この例では、`output` ディレクトリ内のファイルに「1 `dfsadmin`」という内容が含まれていることがわかります。

これらのファイルは `HDFS` と呼ばれます。ここでは `Spark` を使って単語を統計していることがわかります。短い数行で、とても便利そうですね。

## Kubernetes

次に、Kubernetes、略して `k8s`（中間の 8 文字を 8 と略す）について触れてみましょう。これは、コンテナ化されたアプリケーションのデプロイ、スケーリング、および管理を自動化するためのオープンソースシステムです。

`kubectl` コマンドラインツールは、`k8s` クラスターに対してさまざまなコマンド操作を実行するために使用されます。これを使ってアプリケーションをデプロイしたり、クラスターリソースを表示・管理したり、ログを確認したりすることができます。

同様に Homebrew を使ってインストールすることもできます。

```
brew install kubectl
```

ログを出力する：

```
--> Downloading https://homebrew.bintray.com/bottles/kubernetes-cli-1.20.1.big_sur.bottle.tar.gz
--> Downloading from https://d29vzk4ow07wi7.cloudfront.net/0b4f08bd1d47cb913d7cd4571e3394c6747dfbad7ff1
#####
##### 100.0%
--> Pouring kubernetes-cli-1.20.1.big_sur.bottle.tar.gz
--> Caveats
```

Bashの補完機能が以下の場所にインストールされました:

```
/usr/local/etc/bash_completion.d
--> Summary
/usr/local/Cellar/kubernetes-cli/1.20.1: 246ファイル, 46.1MB
```

インストールが完了しました。

```
$ kubectl version --client
Client Version: version.Info{Major:"1", Minor:"20", GitVersion:"v1.20.1", GitCommit:"c4d752765b3bbac223"
$ kubectl
kubectl は Kubernetes クラスターマネージャーを制御します。
```

詳細情報はこちらをご覧ください: <https://kubernetes.io/docs/reference/kubectl/overview/>

基本的なコマンド（初心者向け）：create ファイルまたは標準入力からリソースを作成します。 expose レプリケーションコントローラー、サービス、デプロイメント、またはポッドを新しい Kubernetes サービスとして公開します。 run クラスタ上で特定のイメージを実行します。 set オブジェクトの特定の機能を設定します。

基本的なコマンド（中級）：explain リソースのドキュメントを表示 get 1つまたは複数のリソースを表示 edit サーバー上のリソースを編集 delete ファイル名、標準入力、リソースと名前、またはリソースとラベルセレクターによってリソースを削除

デプロイコマンド： rollout リソースのロールアウトを管理します scale Deployment、ReplicaSet、または Replication Controller の新しいサイズを設定します autoscale Deployment、ReplicaSet、または ReplicationController を自動スケーリングします

クラスタ管理コマンド： certificate 証明書リソースを変更します。 cluster-info クラスタ情報を探します。 top リソース（CPU/メモリ/ストレージ）の使用状況を表示します。 cordon ノードを

スケジュール不可としてマークします。uncordon ノードをスケジュール可能としてマークします。drain メンテナンスの準備のためにノードをドレインします。taint 1つ以上のノードのティントを更新します。

トラブルシューティングとデバッグコマンド: describe 特定のリソースまたはリソースグループの詳細を表示 logs ポッド内のコンテナのログを表示 attach 実行中のコンテナにアタッチ exec コンテナ内でコマンドを実行 port-forward 1つ以上のローカルポートをポッドに転送 proxy Kubernetes API サーバーへのプロキシを実行 cp コンテナとの間でファイルやディレクトリをコピー auth 認可を検査 debug ワークロードとノードのトラブルシューティングのためのデバッグセッションを作成

高度なコマンド: diff ライブバージョンと適用される予定のバージョンとの差分を表示 apply ファイル名または標準入力からリソースに設定を適用 patch リソースのフィールドを更新 replace ファイル名または標準入力からリソースを置換 wait 実験的: 1つまたは複数のリソースの特定の条件を待機 kustomize ディレクトリまたはリモート URL から kustomization ターゲットをビルト 設定コマンド: label リソースのラベルを更新する annotate リソースのアノテーションを更新する completion 指定されたシェル (bash または zsh) のシェル補完コードを出力する

その他のコマンド: api-resources サーバーでサポートされている API リソースを表示します api-versions サーバーでサポートされている API バージョンを “group/version” の形式で表示します config kubeconfig ファイルを変更します plugin プラグインとやり取りするためのユーティリティを提供します version クライアントとサーバーのバージョン情報を表示します

使用方法: kubectl [フラグ] [オプション]

与えられたコマンドについての詳細情報は、「kubectl -help」を使用してください。すべてのコマンドに適用されるグローバルなコマンドラインオプションのリストは、「kubectl options」を使用してください。

設定ファイルを作成しましょう。

```
```yaml
apiVersion: apps/v1
kind: Deployment
metadata:
  name: nginx-deployment
spec:
  selector:
    matchLabels:
      app: nginx
```

```

minReadySeconds: 5
template:
  metadata:
    labels:
      app: nginx
spec:
  containers:
    - name: nginx
      image: nginx:1.14.2
      ports:
        - containerPort: 80

```

あなたはプロの翻訳者です。Jekyll ブログ投稿のためのマークダウンファイルを翻訳しています。以下のテキストを日本語に翻訳してください。

```
$ kubectl apply -f simple_deployment.yaml
サーバー localhost:8080 への接続が拒否されました - 正しいホストまたはポートを指定しましたか？
```

```
$ kubectl cluster-info
```

クラスタの問題をさらにデバッグおよび診断するには、「kubectl cluster-info dump」を使用してください。サーバー localhost:8080 への接続が拒否されました - 正しいホストまたはポートを指定しましたか？

当社の公式ウェブサイトのターミナルで試しに実行してみてください。

```
```shell
$ start.sh
Kubernetesを起動中...minikube/バージョン: v1.8.1
コミット: cbda04cf6bbe65e987ae52bb393c10099ab62014
* Ubuntu 18.04上のminikube v1.8.1
* ユーザー設定に基づいてnoneドライバーを使用中
* localhostで実行中 (CPU=2, メモリ=2460MB, ディスク=145651MB) ...
* OSリリースはUbuntu 18.04.4 LTSです
```

- Kubernetes v1.17.3 を Docker 19.03.6 上で準備中...
  - kubelet.resolv-conf=/run/systemd/resolve/resolv.conf
- Kubernetes を起動中...

- ・アドオンの有効化: default-storageclass, storage-provisioner
- ・ローカルホスト環境の設定中...
- ・完了！kubectl が “minikube” を使用するように設定されました
- ・’dashboard’ アドオンが有効化されています Kubernetes が起動しました

それでは、ターミナルに戻りましょう。

```
```shell
$ kubectl version --client
Client Version: version.Info{Major:"1", Minor:"20", GitVersion:"v1.20.1", GitCommit:"c4d752765b3bbac223"
$ kubectl version
Client Version: version.Info{Major:"1", Minor:"20", GitVersion:"v1.20.1", GitCommit:"c4d752765b3bbac223
サーバー localhost:8080 への接続が拒否されました - 正しいホストまたはポートを指定しましたか?
```

興味深いことに、--client オプションを付けてもエラーは発生しませんでした。

ドキュメントによると、まず Minikube をインストールする必要があるということです。

```
$ brew install minikube
==> Downloading https://homebrew.bintray.com/bottles/minikube-1.16.0.big_sur.bottle.tar.gz
==> Downloading from https://d29vzk4ow07wi7.cloudfront.net/1b6d7d1b97b11b6b07e4fa531c2dc21770da290da9b2
#####
==> Pouring minikube-1.16.0.big_sur.bottle.tar.gz
==> Caveats
Bashの補完機能が以下の場所にインストールされました:
/usr/local/etc/bash_completion.d
==> Summary
/usr/local/Cellar/minikube/1.16.0: 8ファイル, 64.6MB

$ minikube start
minikube v1.16.0 on Darwin 11.2.2
minikube 1.18.1 が利用可能です！ダウンロードはこちら: https://github.com/kubernetes/minikube/releases/tag/v1.18.1
この通知を無効にするには、次のコマンドを実行してください: 'minikube config set WantUpdateNotification false'
```

☒ virtualbox ドライバーを自動選択しました ☒ VM ブートイメージをダウンロード中... >  
minikube-v1.16.0.iso.sha256: 65 B / 65 B [-----] 100.00% ? p/s 0s > minikube-v1.16.0.iso: 212.62  
MiB / 212.62 MiB [] 100.00% 5.32 MiB p/s 40s ☒ minikube クラスター内でコントロールプレーン

ノード minikube を起動中 ✘ Kubernetes v1.20.0 のプリロードをダウンロード中... > preloaded-images-k8s-v8-v1....: 491.00 MiB / 491.00 MiB 100.00% 7.52 MiB ✘ virtualbox VM を作成中 (CPU=2, メモリ=4000MB, ディスク=20000MB) ... ✘ この VM は https://k8s.gcr.io へのアクセスに問題を抱えています ✘ 新しい外部イメージをプルするには、プロキシの設定が必要かもしれません: https://minikube.sigs.k8s.io/docs/reference/networking/proxy/ ✘ Docker 20.10.0 上で Kubernetes v1.20.0 を準備中... ▪ 証明書と鍵を生成中... ▪ コントロールプレーンを起動中... ▪ RBAC ルールを設定中... ✘ Kubernetes コンポーネントを検証中... ✘ 有効化されたアドオン: storage-provisioner, default-storageclass ✘ 完了！kubectl はデフォルトで “minikube” クラスターと “default” ネームスペースを使用するように設定されました

次に、このクラスタにアクセスします。

```
```shell
$ kubectl get po -A
NAMESPACE      NAME           READY   STATUS    RESTARTS   AGE
kube-system    coredns-74ff55c5b-ndbcr   1/1     Running   0          60s
kube-system    etcd-minikube        0/1     Running   0          74s
kube-system    kube-apiserver-minikube 1/1     Running   0          74s
kube-system    kube-controller-manager-minikube 1/1     Running   0          74s
kube-system    kube-proxy-g2296       1/1     Running   0          60s
kube-system    kube-scheduler-minikube 0/1     Running   0          74s
kube-system    storage-provisioner   1/1     Running   1          74s
```

このコマンドは、すべてのネームスペース (-A オプション) に存在する Kubernetes の Pod (po) の状態を取得します。各 Pod の名前、準備状態 (READY)、ステータス (STATUS)、再起動回数 (RESTARTS)、および作成からの経過時間 (AGE) が表示されます。例えば、coredns-74ff55c5b-ndbcr という Pod は 1/1 の準備状態で、Running ステータスであり、再起動は 0 回で、60 秒前に作成されました。

minikube のダッシュボードを開きます。

```
$ minikube dashboard
ダッシュボードを有効化しています...
ダッシュボードの健全性を確認しています...
プロキシを起動しています...
プロキシの健全性を確認しています...
デフォルトのブラウザで http://127.0.0.1:50030/api/v1/namespaces/kubernetes-dashboard/services/http:kube
```

The screenshot shows the Kubernetes Dashboard's Overview page. On the left, there are two navigation panes: '工作负载' (Workloads) and '服务' (Services). The 'Services' pane is currently active, showing a table titled 'Services' with one entry: 'kubernetes' in the 'default' namespace. The 'Config Maps' pane also shows a table with one entry: 'kube-root-ca.crt'. Both tables include columns for name, namespace, labels, cluster IP, and creation time.

名称	命名空间	标签	集群 IP	内部 Endpoints	外部 Endpoints	创建时间
kubernetes	default	component: apiserver provider: kubernetes	10.96.0.1	kubernetes:443 TCP kubernetes:0 TCP	-	2.minutes ago

名称	命名空间	标签	创建时间
kube-root-ca.crt	default	-	a.minute.ago

Figure 1: k8s

どうやってオフにするのでしょうか。

\$ minikube

minikubeは、開発ワークフローに最適化されたローカルのKubernetesクラスターをプロビジョニングおよび管理します。

基本的なコマンド: start ローカルの Kubernetes クラスタを起動します status ローカルの Kubernetes クラスタのステータスを取得します stop 実行中のローカル Kubernetes クラスタを停止します delete ローカルの Kubernetes クラスタを削除します dashboard minikube クラスタ内で実行されている Kubernetes ダッシュボードにアクセスします pause Kubernetes を一時停止します unpause Kubernetes の一時停止を解除します

イメージ関連のコマンド: docker-env minikube の Docker デーモンを使用するように環境を設定 podman-env minikube の Podman サービスを使用するように環境を設定 cache ローカルイメージを minikube に追加、削除、またはプッシュ

設定と管理コマンド: addons minikube のアドオンを有効または無効にする config 永続的な設定値を変更する profile 現在のプロファイル（クラスタ）を取得または一覧表示する update-context IP やポートが変更された場合に kubeconfig を更新する

ネットワーキングと接続コマンド: service サービスに接続するための URL を返します tunnel ポートバランサーサービスに接続します

高度なコマンド: mount 指定されたディレクトリを minikube にマウントします ssh minikube 環

境内にログインします（デバッグ用）kubectl クラスターバージョンに一致する kubectl バイナリを実行します node 追加ノードの追加、削除、またはリスト表示を行います

トラブルシューティングコマンド: ssh-key 指定されたノードの SSH 識別キーのパスを取得します ssh-host 指定されたノードの SSH ホストキーを取得します ip 指定されたノードの IP アドレスを取得します logs ローカルの Kubernetes クラスタをデバッグするためのログを返します update-check 現在のバージョンと最新バージョン番号を表示します version minikube のバージョンを表示します

その他のコマンド: completion シェル用のコマンド補完を生成します

与えられたコマンドについての詳細情報は、“minikube -help” を使用してください。

`minikube stop` であることがわかります。

`kubernetes` に戻ると、今は正常に動作しています。

```
```shell
$ kubectl cluster-info
Kubernetesコントロールプレーンは https://192.168.99.100:8443 で実行中です
KubeDNSは https://192.168.99.100:8443/api/v1/namespaces/kube-system/services/kube-dns:dns/proxy で実行中
```

クラスタの問題をさらにデバッグおよび診断するには、「kubectl cluster-info dump」を使用してください。

`https://192.168.99.100:8443` を開くと、ブラウザには以下のように表示されます：

```
```json
{
  "kind": "Status",
  "apiVersion": "v1",
  "metadata": {
    },
    "status": "Failure",
    "message": "禁止: ユーザー \"system:anonymous\" はパス \"/\" を取得できません",
    "reason": "Forbidden",
    "details": {
```

```
},
"code": 403
}
```

`https://192.168.99.100:8443/api/v1/namespaces/kube-system/services/kube-dns:dns/proxy` にアクセスします：

```
{
  "kind": "Status",
  "apiVersion": "v1",
  "metadata": {

  },
  "status": "Failure",
  "message": " サービス \"kube-dns:dns\" は禁止されています： ユーザー \"system:anonymous\" は、 API グループ \"kube-dns\" の \"get\" 権限が付与されていません。",
  "reason": "Forbidden",
  "details": {
    "name": "kube-dns:dns",
    "kind": "services"
  },
  "code": 403
}
```

さっきの設定を試してみましょう。

```
$ kubectl apply -f simple_deployment.yaml
deployment.apps/nginx-deployment が作成されました
```

少し問題があります。しかし、ここまでで `kubernetes` を起動することができました。まずはここで終了します。後でまた遊びましょう。

```
$ minikube stop
"minikube" ノードを停止中...
1つのノードが停止しました。
```

終了を確認します。

```
w$ minikube dashboard
このコマンドを実行するには、コントロールプレーンノードが実行されている必要があります
クラスターを開始するには、次のコマンドを実行してください: "minikube start"
```

## Docker

Docker もまた、現代のアプリケーションの作成、共有、実行を加速するためのコンテナプラットフォームです。公式サイトからアプリケーションをダウンロードできます。

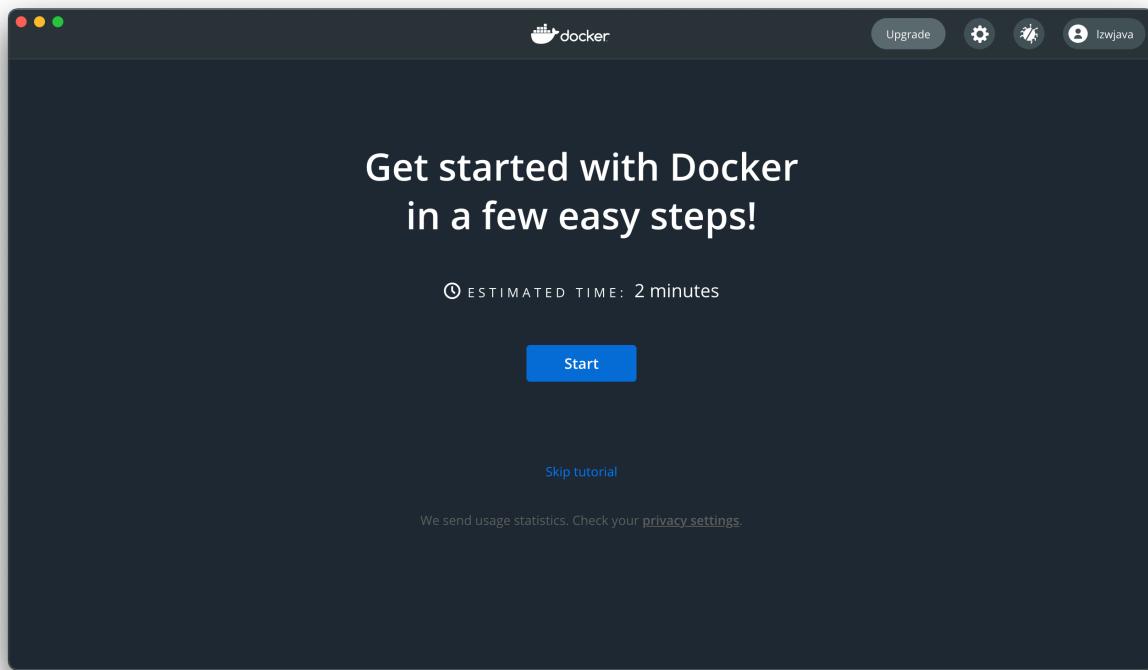


Figure 2: docker

クライアントが少し重いです。コマンドラインを使ってみましょう。

```
$ docker
```

使用方法: docker [オプション] コマンド

コンテナのための自立型ランタイム

オプション: -config string クライアント設定ファイルの場所 (デフォルト “/Users/lzw/.docker”) -c, -context string デーモンに接続するためのコンテキスト名を指定 (DOCKER\_HOST 環境変数と “docker context use” で設定されたデフォルトコンテキストを上書き) -D, -debug デバッグモードを有効にする -H, -host list 接続するデーモンのソケット -l, -log-level string ログレベルを設定 (“debug”|“info”|“warn”|“error”|“fatal”) (デフォルト “info”) -tls TLS を使用; -tlsverify によって暗黙的に指定される -tlscacert string この CA によってのみ署名された証明書を信頼 (デフォルト “/Users/lzw/.docker/ca.pem”) -tlscert string TLS 証明書ファイルへのパス (デフォルト “/Users/lzw/.docker/cert.pem”) -tlskey string TLS キーファイルへのパス (デフォルト

“/Users/lzw/.docker/key.pem”) –tlsverify TLS を使用し、リモートを検証する -v, –version バージョン情報を表示して終了

管理コマンド: app\* Docker App (Docker Inc., v0.9.1-beta3) builder ビルドを管理 buildx\* BuildKit を使用してビルド (Docker Inc., v0.5.1-docker) config Docker 設定を管理 container コンテナを管理 context コンテキストを管理 image イメージを管理 manifest Docker イメージマニフェストとマニフェストリストを管理 network ネットワークを管理 node Swarm ノードを管理 plugin プラグインを管理 scan\* Docker Scan (Docker Inc., v0.5.0) secret Docker シークレットを管理 service サービスを管理 stack Docker スタックを管理 swarm Swarm を管理 system Docker を管理 trust Docker イメージの信頼を管理 volume ボリュームを管理

コマンド: attach 実行中のコンテナにローカルの標準入力、出力、エラーストリームを接続します build Dockerfile からイメージをビルドします commit コンテナの変更から新しいイメージを作成します cp コンテナとローカルファイルシステム間でファイル/フォルダをコピーします create 新しいコンテナを作成します diff コンテナのファイルシステム上のファイルやディレクトリの変更を検査します events サーバーからのリアルタイムイベントを取得します exec 実行中のコンテナ内でコマンドを実行します export コンテナのファイルシステムを tar アーカイブとしてエクスポートします history イメージの履歴を表示します images イメージを一覧表示します import tarball の内容をインポートしてファイルシステムイメージを作成します info システム全体の情報を表示します inspect Docker オブジェクトの低レベル情報を返します kill 1つ以上の実行中のコンテナを強制終了します load tar アーカイブまたは STDIN からイメージをロードします login Docker レジストリにログインします logout Docker レジストリからログアウトします logs コンテナのログを取得します pause 1つ以上のコンテナ内のすべてのプロセスを一時停止します port コンテナのポートマッピングまたは特定のマッピングを一覧表示します ps コンテナを一覧表示します pull レジストリからイメージまたはリポジトリをプルします push イメージまたはリポジトリをレジストリにプッシュします rename コンテナの名前を変更します restart 1つ以上のコンテナを再起動します rm 1つ以上のコンテナを削除します rmi 1つ以上のイメージを削除します run 新しいコンテナ内でコマンドを実行します save 1つ以上のイメージを tar アーカイブに保存します (デフォルトでは STDOUT にストリームされます) search Docker Hub でイメージを検索します start 1つ以上の停止中のコンテナを起動します stats コンテナのリソース使用統計のライブストリームを表示します stop 1つ以上の実行中のコンテナを停止します tag SOURCE\_IMAGE を参照する TARGET\_IMAGE タグを作成します top コンテナの実行中のプロセスを表示します unpause 1つ以上のコンテナ内のすべてのプロセスを再開します update 1つ以上のコンテナの設定を更新します version Docker のバージョン情報を表示します wait 1つ以上のコンテナが停止するまでブロックし、その終了コードを出力します

コマンドの詳細情報については、‘docker COMMAND –help’ を実行してください。

Docker の詳細なヘルプが必要な場合は、<https://docs.docker.com/go/guides/> のガイドをご覧ください

さい。

チュートリアルに従って試してみましょう。

```
```shell
$ docker run -d -p 80:80 docker/getting-started
Unable to find image 'docker/getting-started:latest' locally
latest: Pulling from docker/getting-started
aad63a933944: Pull complete
b14da7a62044: Pull complete
343784d40d66: Pull complete
6f617e610986: Pull complete
Digest: sha256:d2c4fb0641519ea208f20ab03dc40ec2a5a53fdfbccca90bef14f870158ed577
Status: Downloaded newer image for docker/getting-started:latest
815f13fc8f99f6185257980f74c349e182842ca572fe60ff62ccb15641199eaf
docker: Error response from daemon: Ports are not available: listen tcp 0.0.0.0:80: bind: address already in use
```

上記のエラーメッセージは、Dockerがポート 80 を使用しようとした際に、そのポートが既に他のプロセスによって使用されているため、バインドできないというエラーです。この問題を解決するためには、以下のいずれかの方法を試すことができます：

1. **ポートの変更:** Docker コンテナが使用するポートを変更します。例えば、ポート 8080 を使用するように変更します。

```
$ docker run -d -p 8080:80 docker/getting-started
```

2. **既存のプロセスを停止:** ポート 80 を使用している既存のプロセスを停止します。例えば、Apache や Nginx などのウェブサーバーがポート 80 を使用している場合、それらを停止してから再度 Docker コンテナを起動します。
3. **ポートの解放:** ポート 80 を使用しているプロセスを特定し、そのプロセスを終了します。以下のコマンドを使用して、ポート 80 を使用しているプロセスを特定できます。

```
$ sudo lsof -i :80
```

その後、特定されたプロセス ID (PID) を使用してプロセスを終了します。

```
$ sudo kill <PID>
```

これらの方法のいずれかを試して、ポート 80 が使用可能な状態にすることで、Docker コンテナを正常に起動できるようになります。

ポートを変更します。

```
$ docker run -d -p 8080:80 docker/getting-started  
45bb95fa1ae80adc05cc498a1f4f339c45c51f7a8ae1be17f5b704853a5513a5
```

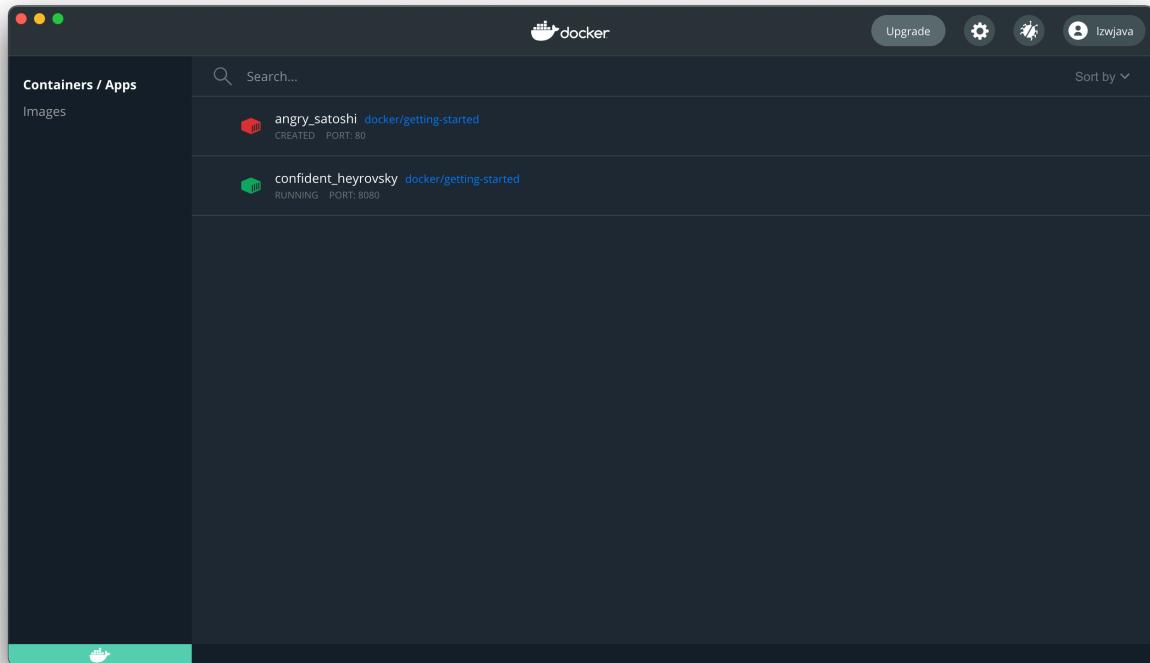


Figure 3: docker\_run

ブラウザを開いて、`docker` が正常に動作していることを確認します。

コンテナを停止します。先ほど返された ID を使用してください。

```
$ docker stop 45bb95fa1ae80adc05cc498a1f4f339c45c51f7a8ae1be17f5b704853a5513a5  
45bb95fa1ae80adc05cc498a1f4f339c45c51f7a8ae1be17f5b704853a5513a5
```

このコマンドは、指定されたコンテナ ID の Docker コンテナを停止するものです。コンテナ ID は、`45bb95fa1ae80adc05cc498a1f4f339c45c51f7a8ae1be17f5b704853a5513a5` という長い文字列で、一意にコンテナを識別します。コマンドを実行すると、指定されたコンテナが停止され、そのコンテナ ID が再度表示されます。

この時点では、ウェブサイトはすでに開けなくなっていました。

これは `docker` が仮想マシンのようなものであることを示しています。

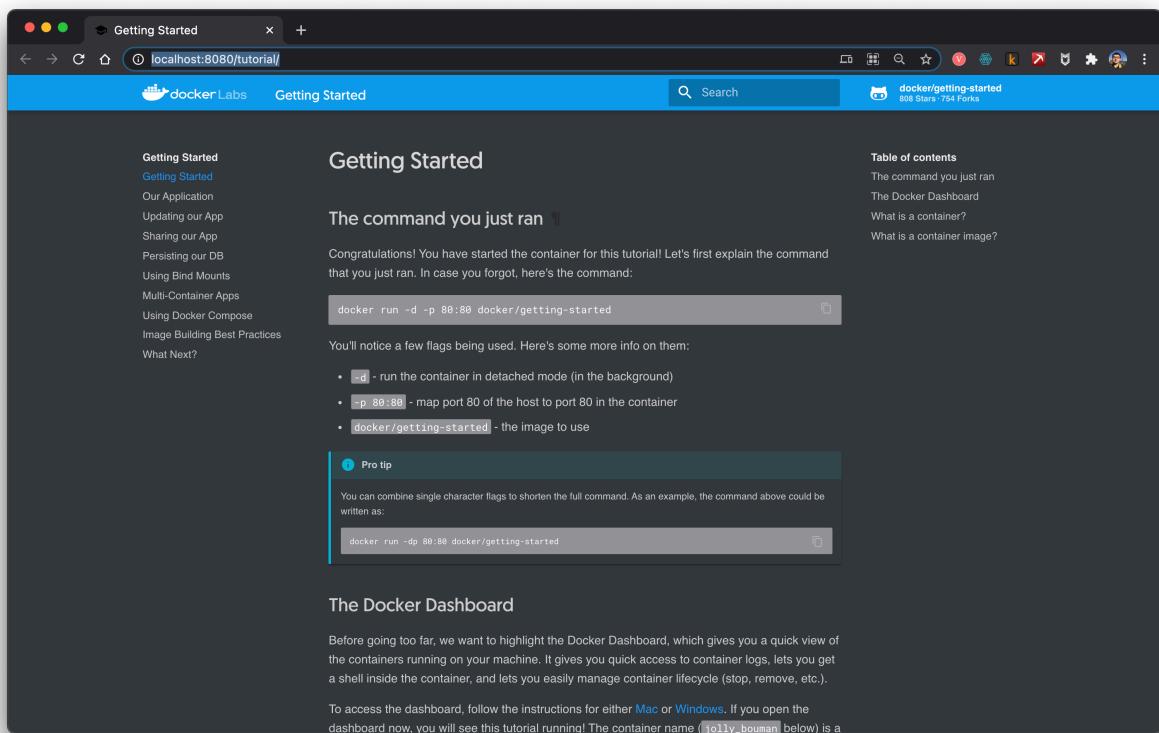


Figure 4: ブラウザ

## Flink

公式サイトを開く。

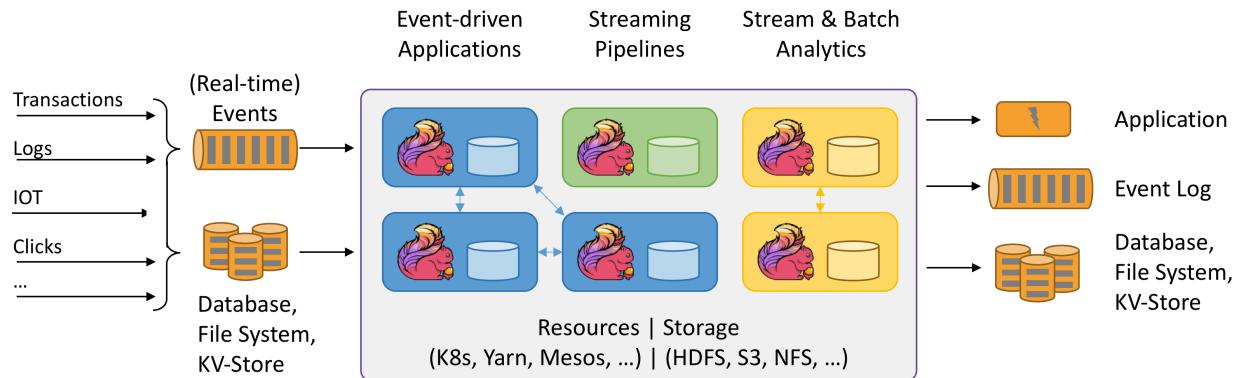


Figure 5: flink-home-graphic

Flink はデータストリームの Stateful 計算について語っています。Stateful とは何を指すのでしょうか？まだ理解できていません。上の図はとても興味深いです。試してみましょう。

Java 環境が必要だと言われました。

```
$ java -version
java version "1.8.0_151"
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.8.0_151-b12)
Java HotSpot(TM) 64-Bit Server VM (build 25.151-b12, mixed mode)
```

公式サイトから最新バージョンの `flink-1.12.2-bin-scala_2.11.tar` をダウンロードします。

```
$ ./bin/start-cluster.sh
クラスターを起動中です。
ホスト lzwjava で standalonesession デーモンを起動中です。
ホスト lzwjava で taskexecutor デーモンを起動中です。
```

```
$ ./bin/flink run examples/streaming/WordCount.jar
WordCountの例をデフォルトの入力データセットで実行中。
ファイル入力を指定するには--inputを使用してください。
結果を標準出力に表示します。出力先を指定するには--outputを使用してください。
JobID 60f37647c20c2a6654359bd34edab807でジョブが送信されました。
プログラムの実行が完了しました
JobID 60f37647c20c2a6654359bd34edab807のジョブが完了しました。
```

ジョブの実行時間: 757 ms

```
$ tail log/flink-*-taskexecutor-* .out
(nymph,1)
(in,3)
(thy,1)
(orisons,1)
(be,4)
(all,2)
(my,1)
(sins,1)
(remember,1)
(d,4)
```

このコードブロックは、Flink タスクエグゼキュータのログファイルから最後の 10 行を表示しています。ログには、単語とその出現回数が表示されています。例えば、(nymph,1) は「nymph」という単語が 1 回出現したことを示しています。この出力は、テキスト処理や単語の頻度分析の結果を示している可能性があります。

```
$ ./bin/stop-cluster.sh
タスクエグゼキュータデーモン (pid: 41812) をホスト lzwjava で停止しています。
```

はい、起動に成功しました。見ての通り、これは Spark とよく似ています。

## Kylin

公式サイトを開いてみましょう。

Apache Kylin™ は、ビッグデータ向けのオープンソースで分散型の分析データウェアハウスです。ビッグデータ時代において OLAP（オンライン分析処理）機能を提供するために設計されました。Hadoop と Spark 上での多次元キューブと事前計算技術を革新することで、Kylin はデータ量が増え続けてもほぼ一定のクエリ速度を実現します。クエリの遅延を数分から 1 秒未満に削減し、Kylin はオンライン分析をビッグデータに戻します。

Apache Kylin™ は、3 つのステップで数十億行のデータをサブ秒レベルの遅延でクエリできるようにします。

1. Hadoop 上のスター/スノーフレークスキーマを特定します。
2. 特定したテーブルから Cube を構築します。
3. ANSI-SQL を使用してクエリを実行し、ODBC、JDBC、または RESTful API を介してサブ秒で結果を取得します。

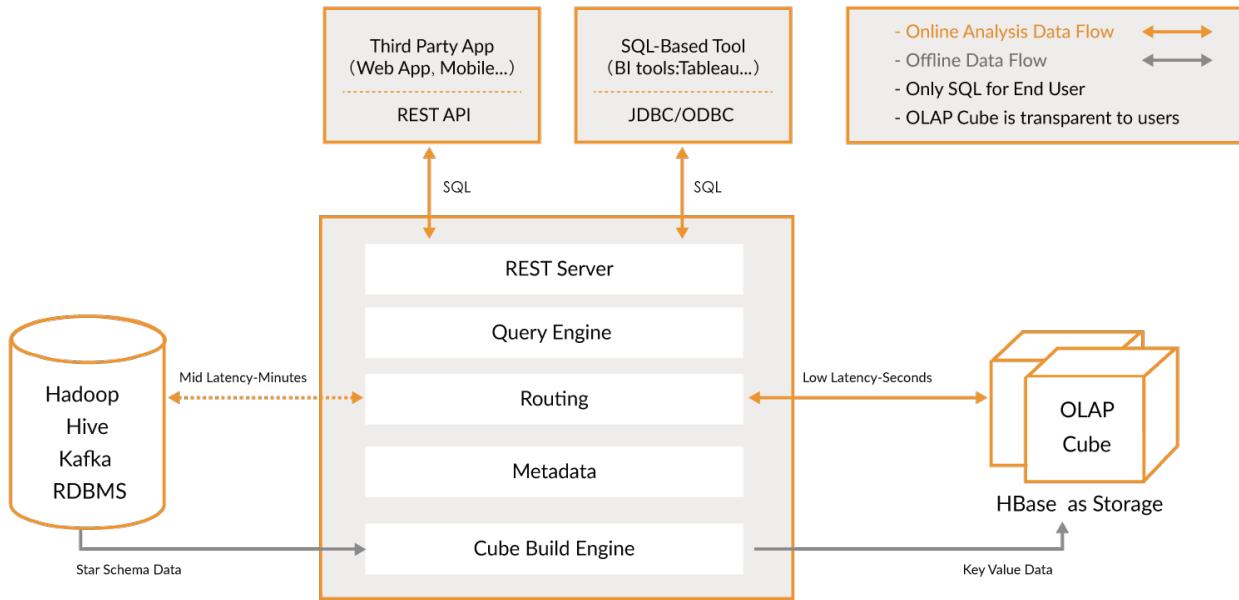


Figure 6: kylin\_diagram

おおよそ、ビッグデータを分析するための層です。それを使えば非常に速く検索できます。橋渡しの役割を果たします。

残念ながら、現在は Linux 環境でのみ使用可能です。後でまた試してみます。

## MongoDB

これもデータベースの一種です。インストールを試してみてください。

```
$ brew tap mongodb/brew
==> mongodb/brewをタップ中
'/usr/local/Homebrew/Library/Taps/mongodb/homebrew-brew'にクローンしています...
remote: オブジェクトを数えています: 63, 完了.
remote: オブジェクトを数えています: 100% (63/63), 完了.
remote: オブジェクトを圧縮しています: 100% (62/62), 完了.
remote: 合計 566 (差分 21), 再利用 6 (差分 1), パック再利用 503
オブジェクトを受信中: 100% (566/566), 121.78 KiB | 335.00 KiB/s, 完了.
```

差分を解決中: 100% (259/259), 完了.  
11のフォーミュラをタップしました (39ファイル, 196.2KB).

```
$ brew install mongodb-community@4.4
==> mongodb/brewからmongodb-communityをインストール中
==> https://fastdl.mongodb.org/tools/db/mongodb-database-tools-macos-x86_64-100.3.0.zipをダウンロード中
#####
##### 100.0%
==> https://fastdl.mongodb.org/osx/mongodb-macos-x86_64-4.4.3.tgzをダウンロード中
#####
##### 100.0%
==> mongodb/brew/mongodb-communityの依存関係をインストール中: mongodb-database-tools
==> mongodb/brew/mongodb-communityの依存関係: mongodb-database-toolsをインストール中
エラー: `brew link`ステップが正常に完了しませんでした
フォーミュラはビルドされました、/usr/localにシンボリックリンクされていません
bin/bsondumpのシンボリックリンクを作成できませんでした
ターゲット /usr/local/bin/bsondump
はmongodbに属するシンボリックリンクです。以下のコマンドでリンクを解除できます:
brew unlink mongodb
```

リンクを強制し、すべての競合するファイルを上書きするには: brew link -overwrite mongodb-database-tools

削除されるすべてのファイルをリストアップするには: brew link -overwrite -dry-run mongodb-database-tools

競合する可能性のあるファイルは以下の通りです: /usr/local/bin/bsondump -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/bsondump  
/usr/local/bin/mongodump -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongodump /usr/local/bin/mongoexport  
-> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongoexport /usr/local/bin/mongofiles -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongofiles  
/usr/local/bin/mongoimport -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongoimport /usr/local/bin/mongorestore  
-> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongorestore /usr/local/bin/mongostat -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongostat  
/usr/local/bin/mongotop -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongotop ==> 概要 □ /usr/local/Cellar/mongodb-database-tools/100.3.0: 13 ファイル, 154MB, 11 秒でビルド ==> mongodb/brew/mongodb-community のインストール エラー: brew link ステップが正常に完了しませんでした フォーミュラはビルドされました、/usr/local にシンボリックリンクされていません bin/mongo のシンボリックリンクを作成できませんでした ターゲット /usr/local/bin/mongo は mongodb に属するシンボリックリンクです。以下のコマンドでリンクを解除できます: brew unlink mongodb

リンクを強制し、すべての競合するファイルを上書きするには: brew link -overwrite mongodb-community

削除されるすべてのファイルをリストアップするには: brew link -overwrite -dry-run mongodb-community

競合する可能性のあるファイルは以下の通りです: /usr/local/bin/mongo -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongo /usr/local/bin/mongod -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongod /usr/local/bin/mongos -> /usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7/bin/mongos ==> 注意事項 launchd が mongodb/brew/mongodb-community をすぐに起動し、ログイン時に再起動するようにするには: brew services start mongodb/brew/mongodb-community または、バックグラウンドサービスを必要としない場合は、次のコマンドを実行してください: mongod --config /usr/local/etc/mongod.conf ==> 概要 [/usr/local/Cellar/mongodb-community/4.4.3: 11 ファイル, 156.8MB, 10 秒でビルド ==> 注意事項 ==> mongodb-community launchd が mongodb/brew/mongodb-community をすぐに起動し、ログイン時に再起動するようにするには: brew services start mongodb/brew/mongodb-community または、バックグラウンドサービスを必要としない場合は、次のコマンドを実行してください: mongod --config /usr/local/etc/mongod.conf

以前に古いバージョンをインストールしていました。リンクを解除します。

```
```shell
$ brew unlink mongodb
/usr/local/Cellar/mongodb/3.0.7 のリンクを解除しています... 11 のシンボリックリンクが削除されました

$ mongod --version
db version v4.4.3
Build Info: {
    "version": "4.4.3",
    "gitVersion": "913d6b62acfbb344dde1b116f4161360acd8fd13",
    "modules": [],
    "allocator": "system",
    "environment": {
        "distarch": "x86_64",
        "target_arch": "x86_64"
    }
}
```

次に、mongod を実行して MongoDB データベースサーバーを起動します。しかし、初回起動時に /data/db が存在しないというエラーが発生しました。そこで、データベースファイルを保存するためのディレクトリ ~/mongodb を作成します。

```
$ mongod --dbpath ~/mongodb
```

このコマンドは、MongoDB のデータベースサーバー (`mongod`) を起動し、データベースファイルの保存先として指定されたディレクトリ (`~/mongodb`) を使用するように指示します。`--dbpath` オプションは、MongoDB がデータを保存するディレクトリを指定するために使用されます。この場合、ホームディレクトリ内の `mongodb` フォルダが指定されています。

出力：

```
{"t":{"$date":"2021-03-11T18:17:32.838+08:00"},"s":"I", "c":"CONTROL", "id":23285, "ctx":"main","msg": "Served internal request: { $getLogger: \"$internal\" }"}, {"t":{"$date":"2021-03-11T18:17:32.842+08:00"},"s":"W", "c":"ASIO", "id":22601, "ctx":"main","msg": "ASIO: [asio::basic_resolver<asio::ip::tcp>] failed to resolve host name: no such host"}, {"t":{"$date":"2021-03-11T18:17:32.842+08:00"},"s":"I", "c":"NETWORK", "id":4648602, "ctx":"main","msg": "ASIO connection 0x559f3e05a000 (0x559f3e05a000) failed to connect to 127.0.0.1:27017 (0x559f3e05a000) [asio::ip::tcp::socket::connect]: Connection refused (0x559f3e05a000)"}, {"t":{"$date":"2021-03-11T18:17:32.842+08:00"},"s":"I", "c":"STORAGE", "id":4615611, "ctx":"initandlisten","msg": "Storage engine failed to open a database file"}, {"t":{"$date":"2021-03-11T18:17:32.842+08:00"},"s":"I", "c":"CONTROL", "id":23403, "ctx":"initandlisten","msg": "initandlisten starting"}, {"t":{"$date":"2021-03-11T18:17:32.843+08:00"},"s":"I", "c":"CONTROL", "id":51765, "ctx":"initandlisten","msg": "initandlisten waiting for connections on port 27017"}, {"t":{"$date":"2021-03-11T18:17:32.843+08:00"},"s":"I", "c":"CONTROL", "id":51765, "ctx":"initandlisten","msg": "initandlisten started"}...
```

見ての通り、すべて JSON 形式です。MongoDB はすべてのデータファイルを JSON 形式で保存します。次に、別のターミナルタブを開いてください。

```
$ mongo
MongoDB shell version v4.4.3
接続中: mongodb://127.0.0.1:27017/?compressors=disabled&gssapiServiceName=mongodb
暗黙のセッション: session { "id" : UUID("4f55c561-70d3-4289-938d-4b90a284891f") }
MongoDB server version: 4.4.3
---
```

サーバー起動時に以下の警告が生成されました:

```
2021-03-11T18:17:33.743+08:00: データベースに対してアクセス制御が有効になっていません。データと設定への
2021-03-11T18:17:33.743+08:00: このサーバーはlocalhostにバインドされています。リモートシステムはこのサ
2021-03-11T18:17:33.743+08:00: ソフトリミットが低すぎます
2021-03-11T18:17:33.743+08:00: 現在の値: 4864
2021-03-11T18:17:33.743+08:00: 推奨最小値: 64000
---
```

MongoDBの無料クラウドベースの監視サービスを有効にすると、デプロイメントに関するメトリクス（ディスク使用率

監視データは、あなたとあなたが URL を共有した誰もがアクセスできる、一意の URL を持つ MongoDB のウェブサイトで利用可能になります。MongoDB はこの情報を使用して、製品の改善を行い、MongoDB 製品および展開オプションを提案する場合があります。

無料モニタリングを有効にするには、次のコマンドを実行してください: db.enableFreeMonitoring()  
このリマインダーを永続的に無効にするには、次のコマンドを実行してください:  
db.disableFreeMonitoring()

次に、データの挿入やクエリを試すことができます。

```
```shell
> db.inventory.insertOne(
...   { item: "canvas", qty: 100, tags: ["cotton"], size: { h: 28, w: 35.5, uom: "cm" } }
...
{
  "acknowledged" : true,
  "insertedId" : ObjectId("6049ef91b653541cf355facb")
}
>
> db.inventory.find()
{ "_id" : ObjectId("6049ef91b653541cf355facb"), "item" : "canvas", "qty" : 100, "tags" : [ "cotton" ],
```

このコードは、MongoDBのシェルで実行される操作を示しています。まず、db.inventory.insertOne() メソッドを使用して、inventory コレクションに新しいドキュメントを挿入しています。このドキュメントには、item、qty、tags、sizeなどのフィールドが含まれています。挿入が成功すると、acknowledged が true となり、新しく挿入されたドキュメントの \_id が返されます。

次に、db.inventory.find() メソッドを使用して、inventory コレクション内のすべてのドキュメントを検索しています。この場合、先ほど挿入したドキュメントが表示されます。

## 最後に

ここまでです。後で他のツールを試してみましょう。私たちがこれらを行う意味は何でしょうか。おそらく、最初に全体像を把握することです。何事も始めるのが難しいですが、私たちは最初からこれらすべてを試してみました。これにより、私たちは自信を持ち、次に進むことができます。次は、これらのソフトウェアをもっと試してみることです。

## 練習

- 学生は上記のように探索を進めます。